

北海道富良野市教育委員会

(概要)

富良野市は、北海道のほぼ中心に位置しており「北海道のへそ」として市民に親しまれている。

総面積は、600.97km²で東方に大雪山系十勝岳、西方に夕張山系芦別岳がそびえ、南方には天然林の大樹海（東京大学北海道演習林）があり、市域の約7割が森林区域という恵まれた自然環境にある。

学校施設は、小学校9校、中学校7校、合計16校（内2校併置校）設置されており、現在、小学校1校が平成20年度からエコスクールの取り組みを行っている。

豊かな自然環境を維持しながら、多様な自然と林業の素材を活かした総合的な学習の中で、自然環境学習として森林資源の重要性、更に木材を利用した学校施設を教材として利用することにより、森林機能の重要性について学習することから、省エネルギーの重要性について学習している。

(エコスクール化の内容)

山部小学校の隣接地にある東京大学北海道演習林が実施している持続的な木材生産と森林研究の活用を活かし、温もりと潤いのある教育環境の創出を目的とし、建築物の木質化を図るとともに、地域産業の活性化や森林資源の有効活用を推進する。



山部小学校屋内運動場（平成21年12月完成）



木材（集成材）利用した屋内運動場
（間伐材(カラマツ材)約1500本利用・地元産



全校児童対象に集成材組立前の森林資源学習



木材利用について子ども達からの質問



加工された森林資源を実際に手で触れる



加工された森林資源を実際に手で触れる

環境教育の実践事例

(環境教育の目的)

本市は、「環境に優しいまち」としても知名度が高く、環境教育について各種計画に盛り込み実践している。現在、ゴミの分別・リサイクル学習に加え、「空気、水、土、体験プログラム」事業への参加や農業体験・食育を通し、経済と市民生活、「環境との共生」の大切さを学ぶ教育を実践している。環境や環境問題に関心・知識をもち、人間活動と環境のかかわりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や思考力、判断力を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動がとれる態度を育成する。

(環境教育実践事例)

- ・ 自然に対する豊かな感受性や環境に対する意欲や関心を培う。
- ・ 環境と人とのかかわりや環境問題と社会・生活様式とのかかわりについて理解を深める。
- ・ 環境保全や環境の創造を具体的に実践する態度を身に付ける。
- ・ 自然体験や社会体験などを通じて環境問題を科学的にとらえ、主体的に取り組む能力を育成する。
- ・ 環境問題を総合的にとらえ、主体的に働きかける能力や態度を育成する。



「富良野自然塾」を活用し、地球環境や自然を考え、環境意識の向上を図る。【扇山小学校】



「クリーン作戦」麓郷街道のゴミ拾い清掃することにより、自然愛護の意識を高揚させる。【麓郷小学校】



身近な里川の観察を通して河川環境に興味を持たせるとともに、郷土への愛着を深め、河川愛護の意識を高める。【布部小中学校】



「原始が原パトロール登山」自然愛護の目的から、全生徒が「大麓自然愛護少年団」に所属し「原始が原」へ登山しながら登山道整備、並びに麓郷街道の清掃することにより自然愛護の意識を高揚させる。【麓郷中学校】